

集まって話そう地球の環境、私たちの未来

近年、深刻化する気候変動や環境問題。

これからの未来を担う子どもたちために今を生きる私たちに何ができるのかを考える機会として、豊中市民エネルギーの会、山崎博文さんにお話しいただきました。

お話：山崎博文さん（豊中市民エネルギーの会 理事）

地球温暖化の現状

こんにちは、山崎です。皆さんで地球の事を考える機会を持って大変うれしく思っています。地球って宇宙から見たらものすごく美しい、素晴らしい星です。

海があり、緑があり、生命がある。それが今、動物たちが命がけの状態になってきています。何とかこの状態をなくしていかないとということで、地球温暖化というのを見ていきたいと思えます。

最近の報道では、2030年ごろには、夏場に北極海の氷がなくなって、気候にもものすごく大きな影響があるということです。実際、世界の平均気温は急激に上がっていています。しかも、2000年以降さらに加速している。世界の気候がこれだけ急激に変化するというのは本当にまれなことで、しかも人間の活動が原因だということもわかってきています。だから、その原因を我々がなくしていかないといけないです。

今までは熱を宇宙空間に逃がしていました。もし、温室効果ガスが全くなくて、熱を全部逃がすと、地球の平均温度がマイナス19度になるんです。少し温室効果ガスがあっただけいい、平均15度を保ってきました。しかし、最近、温室効果ガスが増えてきて、熱が全部逃げて行かず、こもってしまう。これが地球温暖化の原因で、われわれの生活が今の状況を生み出しているんです。これは、科学的にもほぼ確実です。

全体的に見れば全然いいことないです。極端な気象、熱波、今までになかったような洪水。一方で、降らないところは全く降らない干ばつ。さらに、台風がだんだん増えている。一番の問題は、今後ますますひどくなっていくことです。梅雨明け前の今の時期に猛暑日になることは考えられなかったですし、夏になったら30度や35度は当たり前になっている。これが異常なんです。最近で一番日本の気温が上がったのは2018年、京都で39.8度、大阪で38.9度でした。日本でも、2000年になってからは急激に上がってきています。

また、毎年豪雨があっただけでなく、大洪水、土砂崩れといった大災害が起っています。台風の風もますます強くなっていく可能性があります。

異常気象の一番の問題は海水温の上昇です。日本近海は、特にひどいです。例年の2度近くまで上がっている。水の温まりにくさを考えると、水の温度が1度上がるということは、気温で言うとは何十度上がることに匹敵するかもしれません。地球表面の海水温だけじゃなくて、深層海

流 3000 メートルのところまで温まりつつあるそうです。大気と海は交互に熱をやり取りしています。今、海に熱が蓄えられて、それを大気に返すと気温がもっと上がります。水蒸気がどんどん蒸発するから、降水量も多くなります。

地球の平均気温は 1.5 度以上上がると、どんどん温暖化していつまで元の状態に戻れない可能性が極めて高いと言われています。そして、1.5 度を 2027 年に突破すると言われています。これがほとんど報道されない。今のところは何とかすればできるんですが、その方向に本気で向いていないということですね。

新しいエネルギーの利用

温暖化の原因である温室効果ガスで一番大きなのは二酸化炭素です。実は、電気を作る時が一番二酸化炭素を排出します。我々の生活はほとんど電気製品でなってますから、大量になってしまうということです。今、日本では、火力発電が 8,9 割です。原子力発電は、CO2 は出さないけれども、もっと危険な放射線を出して、優しいとは言えないので、風力、地熱、太陽光、バイオマスが考えられています。自然エネルギーでないとダメです。世界は、ヨーロッパを中心にその方向で大きく進んでいます。中国も大気汚染が大変なので、一番再生化エネルギーをたくさん作っています。日本では、昔は資源がなくて大変と言われていましたけど、今は違います。石炭・石油は使えなくなり、日本は自然エネルギーの宝庫です。それを利用しない手はないんですけど、政府はまだ既得権益を大事にしてるみたいです。

神奈川県藤沢市で、実験的にスマートタウンがされています。すべての屋根にソーラーパネルがあり、発電したものを電気自動車に、移動手段や蓄電の機能として使います。電気が余っている人は欲しい人に渡す。そうやって電気のやり取りをするというのがスマートタウンなんです。これは世界でも大事ですし、日本でもやり始めています。

それから、風力発電。これも、今やっと政府も力を入れ始めています。洋上風力で、騒音が少なく風も強い。ぜひ本気でやって欲しいと思います。ヨーロッパは緯度が高いから、どちらかと言ったら風力の方が重視されて、何千基と並んでいます。ヨーロッパでは、ほとんど儲かるからやっているんです。風車を立てて電気を売ったら高く買ってくれる。システムが日本とは全然違うんです。

生活で再生可能エネルギーをどう使うか

再生可能エネルギーでも、たくさん使ったらだめです。日本では、電力は、冷蔵庫、照明、テレビ、エアコンの順でよく使っています。エアコンは省エネ型ができて、今は毎日使う冷蔵庫がトップです。照明も LED とかになってくると順番が変わるかもしれないです。エアコンの奨励されている温度は無理やから 24 度にするとか、そういう事にしない方が消費電力は全然違う。それから、物を作る時に、ものすごいエネルギー使うので、物を大事にするのが一番の省エネかもしれません。

日本でなぜこんな大変な状態なのか。温暖化対策が生活の質を高めると考える日本人は

17%しかいないんですが、同じ問いを世界でやると 66%がそうなんです。つまり、世界は、半分以上が、温暖化対策をやれば自分たちの生活は良くなると思える土壤があるんです。

参加者：電力消費を減らすのは個人の努力では限界があるし、儲かるようなシステムを作って、自然エネルギーをやる方向にシステムを変えないといけないと話しました。

参加者：地球温暖化だから原子力発電の稼働せなあかんねんと、そっちに持っていかれるのが、個人的に怖いなと思っています。

参加者：24 時間開いてるコンビニがあちこちにあたり、夜遅くまで働かざるを得なかったり、社会の在り方を背景にしているので、なかなか地球温暖化対策と生活が結びつかないのだと思います。「地球温暖化対策」や「生活の質を高める」という言葉で、日本に住んでいる私たちがイメージするものとヨーロッパの人たちがイメージするものは大きく違うんじゃないかと思いました。

ヨーロッパでは、メガソーラーを設置しようと思えば、地元住民が 20%以上出資しなければ作れないから、地元住民が合意をして作っています。ただ、日本の場合は、大手のメガソーラー会社が地元住民を関係なしに木を切って作る。それに住民が反対するということが起こっています。それが大きな違いだと思います。

それから、温暖化防止のために原発をせなあかんと言っているのも、日本が一番です。日本は原発がどんどん増えて、今稼働しているのは 10 基以下ですが、電力会社が多くの原発を抱えています。日本の政府は、大手の電力会社が損しないようなシステムを考えている。そんなことしてるから、温暖化防止と生活を良くすることが結びついていない。一番は政治の違いだと思います。政治が国民の方を向くのか、力を持っている人の顔を見るのか。それを変えるのは我々国民です。お金の出し方を変えれば一気に変わります。

参加者：私の家は、太陽光発電をつけていて、蓄電池を使っています。太陽光で発電して、余ったら関西電力に売るんです。売ったのが 441 円、買ったのが 278 円、差し引きしたら 163 円です。電力消費量もわかります。そこまでホームマネジメントシステムが出来ています。家の断熱もまとめてやると効果があると思います。

参加者：ソーラーパネルも年金生活の中ではなかなか踏み切れないとか、節電の冷蔵庫にして電気代が減ったとか話しました。本人は一生懸命節電しても、家族はそれぞれ生活があるので、なかなかまとまって節電するのは難しいという話もありました。

参加者：市民エネルギーの会で、電力消費量をチェックする気持ちになってきたので、学ぶことも大事だと思います。

参加者：豊中市は、お得に太陽光パネルと蓄電池を購入しませんかという取り組みをやっています。壁を変えて住宅の温度を変える取り組みもしています。また、省エネの電化製品には補助が出ます。電力消費量の見える化もしています。

再生可能エネルギーを重視している電力会社にお金を払えば、家にソーラーパネルをつけなくても、増やしていくことになります。また、毎日の消費電力が分かるとモチベーションにもなるからいいですね。ヨーロッパは緯度が高くて寒いから、住宅は全部断熱ですが、日本は断熱に関して意識が低いです。断熱をやることも省エネに繋がってきます。

ご清聴ありがとうございました。